



佛事の常識・非常識



Q:故人が使っていたものを使ってもいいですか？A:何も問題はありません。

時々、こういう素朴なご質問を頂くこともあります。たとえばベッドやふとんなど、故人さんが使っていたものを、残った家族が再利用したいと思った時に、「ちょっと待てよ、使っても大丈夫なんかいの？」と不安に思われるようです。そう思う人の中には、お祓いをしてもらった方がいいと考える人もいます。ここには、根深い問題があります。それは「触穢しきくろ」です。人の死を「死の穢れ」としてきた神道などの考え方です。「死の穢れ」によって生が脅かされると思うので、こういう不安が起こります。ただ仏教では、こうした考え方を一切しません。死は穢れでも何でもありません。人間の厳粛な事実なのです。「生のみが我らにあらず。死もまた我らなり」というのが仏教の立場です。ですので、故人様のものであっても遠慮なく使って下さい。それにしても、生前と死後とを手のひらを返したように取り扱ってしまう価値観の方が私には不思議です。なんか冷たい感じがしますね。仏陀のさとりは「生死一如」(しょうじいちによ)と言って、生と死が一体であって二つでないことです。

寺ともさん・ごほれ話 今月も、たくさんの方からメッセージを頂きました。親鸞聖人750回忌法要には、「延期なされた京都市行きもたくさんの方が来られたようでよかったです。法然展・親鸞展に連れ合いは行きました。」など個人的に参加した方からの声がいくつも届きました。それと法要が終わってから「もう本山の団体参拝はないんな？」というお問い合わせを頂きました。かなり長い期間「寺ともコミュニケーション」でお知らせ致しましたのに、大変残念でなりません。その寺ともコミュニケーションで、先月お知らせしました劇団マグダレーナ公演「路地裏の夕陽」にお出かけ下さった方から、「演劇鑑賞の機会をいただき、ありがとうございました。オール讃岐弁というのが、新鮮でした。楽しい時間をありがとうございました。」という感想を頂きました。実は、この劇に出演している役者さんのお一人が、毎週火曜日の体操教室に参加している寺ともさんです。体操教室からも、人と人との輪が広がっています。皆さんからの身近な情報や感想をお待ちしています。

ご自慢のペットちゃん

名前：ゆず
性別：♀
お年：6歳
種類：ミニチュアダックス
好物：生野菜・果物
苦手：ネコ
住所：菅さん宅(高松市)
性格：やんちゃ



ペットちゃんを募集しています

エピソード：名前の「ゆず」は、もちろん歌手の「ゆず」から取ったもので、孫さんが大変気に入ってつけたそうです。病院には、2か月に1回、美容院には2か月に3回シャンプーに行くそうです。その度に車に乗せられて、いつしか車に乗るとガタガタ震えてしまいます。散歩は朝に夕に連れて行ってもらっています。寝るときには、おじいちゃんのところへ眠って、おじいちゃんのことごとっても大好きです。左の写真もおじいちゃんに抱かれて撮りました。



毎日新聞全国版「雑記帳」5/2掲載

去る5/1に行われた寺ともサービス「新鮮らくご会」チャリティー寄席が、毎日新聞「雑記帳」に掲載されました。ご覧のように春日家みっちさんの写真入りです。みっちさんは、大阪のご友人からの連絡で、掲載されたことを知ったそうですよ。

おまけ

いつも大人気の布ぞうり作り。
初めて参加された人も、リピーターも、
とってもステキな布ぞうりが出来上がりました。お家では是非挑戦してみてくださいね。

◎かわら版不要の方は恐れ入りますが
087-821-6348へご連絡を。